

「難聴の脳」補聴器で改善

加齢とともに少しずつ衰えていく聴力。放置すると、聞こえの脳自体が徐々に衰え、「難聴の脳」になってしまふ。そこで活用したいのが補聴器だが、適切なトレーニングをしないと効果が得られないポイントについて、済生会宇都宮病院耳鼻咽喉科の新田清一医師に聞いた。3月3日は「耳の日」。

(荻原恵美子)

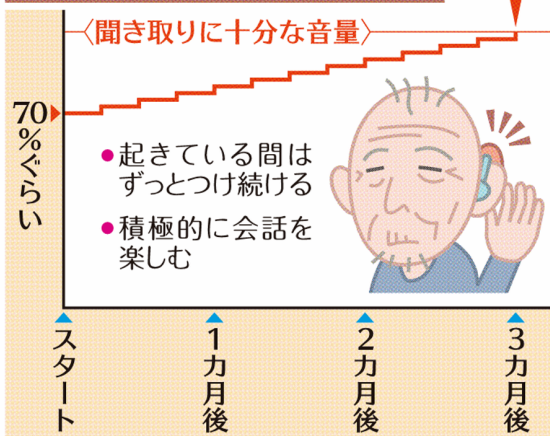
3月3日は耳の日

「音は耳で聞いている」と思いがちだが、実は脳で聞いているというのをよく認識してほしい。新田医師はこう前置きし、聞こえのメカニズムを説明する。

耳から入った音は鼓膜を動かし、蝸牛という神経で電氣に変わる。その電氣は「難聴の脳」に変化して脳に届くことで「聞こえ」

適切な訓練 不可欠

補聴器トレーニングのイメージ



じっくり3カ月

新田医師は「視力が落ちたら眼鏡をかければすぐに見えるようになるが、聞こえの力は補聴器をつけても

り補聴器で「もともと聞いている音量」を入れると、非常に不快に感じてしまう。「補聴器を買ったが、うるさすぎて役に立たない」としまい込んでしまう人も少なくないそうだ。

すぐには改善しない。音を忘れていた脳に音を思い出させるには時間がかかる」と説明する。

そこで必要となるのが補聴器トレーニング。「聞き取りに十分な音量」は人によつて異なるが、スタート時は目標値の70%程度に設定する。「快適ではないが、

日本耳鼻咽喉科学会県地方部会は3月6日午前11時～午後4時、宇都宮市宮園町の東武宇都宮百貨店4階駐車場入り口で「耳の日」無料相談会を

耳に関する 無料相談会

来月6日、宇都宮

開く。済生会宇都宮病院の上野真史医師、自治医大病院の島田茉莉医師、獨協医大病院の金谷洋明医師が相談に応じる。

認知症の危険も

望ましいやり方だ。効果を上げるには、起きている間は常に補聴器をつけることが必要。また、積極的に音のある場所に行き、コミュニケーションを取ること大事だ。忍耐力や意欲が鍵になる。

なんとか我慢できるレベル」だ。数日経つと慣れてくるので、1週間後に少し音量を上げる。こうしたペースを繰り返して、約3カ月かけて十分な音量に上げていくのが

日本耳鼻咽喉科学会のホームページでは「補聴器相談医」が検索できる。

済生会宇都宮病院

新田清一医師に聞く

